

令和7年度 乳幼児教育・保育協働研修通信

7研修第16号

(令和7年11月)

発行:宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス:nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp

16名の先生方と一緒に学び合いました。
(保育所(園)7名・幼稚園2名・認定こども園
4名・小学校3名)

令和7年11月17日(月)
第16回研修会(教育・保育の質向上分野)
往還型研修*【全3回シリーズ】第2回を開催しました。

I.公開保育

宇治市立ひがしうじ幼稚園

4歳児 もも組 担任 高橋 ゆうこ

【往還型研修*】とは
研修で学んだ内容を現場で実践し、
その実践を次の研修で持ち寄って¹
行う研修スタイルです。研修と実践
の往還を繰り返す中で、保育の質の
向上を目指します。



※ この研修通信は、研修会にご参加いただいた皆様はもとより、園内の体制等でご参加いただけなかった皆様にも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。



第1回の往還型研修から子どもが育っていると感じた姿
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より

健康な心と体

- ・ 子どもが自分のしたいことを発信したり、やりたいことを見つけて関わる姿が見られるようになった。

協 同 性

- ・ 友達との関わりが増え、一人で遊んでいる子がいなかった。
- ・ 自分のやりたいことに熱中する中でそれ自体が環境となり、周りの子どもが影響を受けていた。また、憧れが相手の「やりたい！」「～になりたい！」を刺激し、子どもを繋ぐ要素になっていた。

自然との関わり
・生命尊重

- ・ 自然素材を使ってイメージを広げながら自由な発想を全体に広げていると感じた。また、それを作るにあたって協同する姿もあった。
- ・ 自然に触れる時間や場所等の環境を活用し、じっくり活動できていた。

豊かな感性
と表現

- ・ 自分の中で考え、素材を活かし作って遊ぶ姿
- ・ 自分の中でのイメージを楽しんで形にしていたと感じた。

思 考 力 の
芽生え

- ・ 子どもたちが今までの経験を活かして何かを生み出そうとしている姿が見られた。

- ・ ルールのある遊びをしていた。

道徳性・規範意識
の芽生え





公開保育中の環境構成や保育者の関わりで、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

【環境構成】



- 外での環境の作り方や子どもたちのイメージを形にしている環境
- 素材や季節に合った絵本が園庭に置いてあり、いつでも手に取れるようになっていたこと。
(自園では室内に置いていることが多いので)
- 遊びを選択することができる。
- 教材が豊富
- 選んで描けるように画材をたくさん用意している。
- 秋ならではの自然物を使ったあそびがステキで、その自然物は、自分たちで集めたものを
使っていること
- 製作、身体を動かして遊ぶ、絵本、まったり過ごす等、自分で過ごし方を決めることができる環境

【保育者の関わり】



- 子どもたちのやりたい気持ちを明日につなげる姿
- 子どもたちが活動する中で、保育者の「ダメ」「アカン」等、禁止の言葉が
一切なかったこと
- 子どもたちに愛を持って接し、全てを受け止めてあげていたこと
- ずっと笑顔でおられたこと
- 声が小さく落ち着いておられたこと
- 自然物を自由に使い、作りたいものを作り、保育者もそこから広げ発展させていること
- バッタを捕まえてきた子どもとその周囲の子どもに「暑かったから連れてきてくれたんだよ
ね。あれ、えさがない!!どうしよう?」と子どもたちに問いかけていたところ。
- 片づけの時に子どもが「やりたい」と思う声かけをしていた。
- 常に肯定的に子どもに関わっていること。



2. グループ協議

各自の実践事例や公開保育について語り合う中で、第1回に考えた研究テーマの捉え方について再考してみよう！



グループ協議中に、仲間の発言で心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

心が揺れる
瞬間

- 心がゆれる瞬間を大人も一緒に楽しむ！
- 子どもをしっかり見取らないとそのようなタイミングに出会わない。

楽しむ

- 保育者も楽しいことが大切だということ
- 子どもの思いに寄り添うことで安心の基盤は出来ている。
そこからどう『子どもと共に』を考えていくか。楽しむって大切

安心・
居場所

- 安心できる環境(居場所)作り
- 自分たちは子どもの心を育てる。抱きしめるところから。
- いろいろな遊びの空間があることが、一人ひとりにとっての居場所につながる。

「やりたい」

- 子どもが「やりたい」という思いを伝えられること。そのためには信頼関係づくりだと再確認した。

ゆとり

- 保育者的心のゆとり(時間の使い方・ゆとり)

研究テーマ

『子どもと共につくる教育・保育とは』



グループ	研究テーマの捉え方	
	第1回	第2回
A	子どもの思いに寄り添いながら肯定的に関わっていく。	→ 子どもの心がゆれる瞬間に寄り添い、一緒に経験することを楽しむ。
B	安心して自分で活動を選べる環境	→ ・子どもがしたいことを言える。 ・したいことを実現できるゆとりがある。
C	・選択と主体性 ・失敗から学ぶ成功体験 ・関わりの中での気付き	→ ・「自由」の線引き ・愛情、心を育てて「共に」の楽しさ、心地よさを知る。
D	一緒に「やりたい」を見つける。	→ 一緒に「やりたい」を見つける。 ～安心できる環境作り～



3. 指導助言



京都教育大学 教育学部 幼児教育科
准教授 佐川 早季子 先生



講師の先生のお話の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

環境

- ・子どもたちにわかりやすい環境を作る大切さ
- ・生活面での自立に向けてのお話で、「しようと思う環境」「達成感」は自園でも実践できると思った。
- ・子どもと共に居場所となる環境を作る。

チューニング

- ・子どもの行為に対してチューニングを行っていく。
- ・子どものペースに自分の歩調を合わせる。

言葉掛け

- ・片づけなどの行動、させることが目的の言葉掛けになっていないか。
- ・子どもたちが必要性を感じることのできる声かけや仕掛けが大切である。

質の向上

- ・事例を書くことで子どもを見る目、保育の質が高められる。
- ・「主体的・一人ひとり」とは具体的に捉え、研究することで質が高まる。
- ・仮説を立てて実践する。この繰り返しの中で保育という抽象的な世界が具体的になる。

共有

- ・子どものイメージを保育者がつなげる。
(他の子に共有することで広める)



興味

- ・「同じ場所でも少しずつ違うことに興味を持っていて、一緒に場を共有・共感し合っていた」という話で無理に同じことをさせなくてもいいのだと改めて感じさせられた。同じ場でつながることも大切にしていきたい。
- ・一人ひとり興味が違い、やりたいことも微妙に違う。



